

琵琶湖周辺の想定浸水範囲について

平成15年8月7日

国土交通省近畿地方整備局

1. 琵琶湖周辺の浸水区域調査

(1) 調査目的

各々のメッシュに対する平均地盤高とその高さに対する資産の算定に対し、実際とのか
いりが生じてしまう。この原因は、全ての資産が、平均地盤高に依存している結果である。

特に、琵琶湖周辺においては、水位に対する浸水戸数の過大評価されてしまうことにな
ってしまう。そこで、地盤高の低い区域を調査し、地盤高（田、畑、家屋、道路）との関
係について、調査を行った。

(2) 調査結果

調査地点は以下の通りである。

- 1) 大津市（ロイヤルオークホテル付近）
- 2) 安土町（西の湖入り江付近）
- 3) 能登川町（乙女浜付近）
- 4) 米原町（米原駅付近）
- 5) 高島町（旧鯉川付近）

これらの平均地盤高は、 $B.S.L+0.4m \sim +0.8m$ 程度であり、田畑は低い所にある。一方で、
道路、家屋はともに $B.S.L+0.8m$ 以上の所に存在しているため、実際の被害を算出する際に、
不都合が生じてしまう。

浸水に対する、家屋の被害については、平均地盤高にいくらかの高さ（＝補正值）を加えた
ものが、実際の被害に合うものと推察される。今回実施した昭和 36 年 6 月洪水の降雨倍率
1.0 倍（現状： $B.S.L+0.98m$ ）は、平成 7 年 5 月洪水（現状 $B.S.L+0.93m$ ）と同程度の琵琶湖水
位であった。そこで平成 7 年 5 月洪水の浸水戸数とはほぼ同じにするには、補正值を $0.8m$ と
すると一致するため、戸数（補正後）として表示した。

しかし、それよりも高い地盤高の浸水高の浸水家屋を評価する場合は、一律、補正值を
 $0.8m$ とするのは、過小評価になる可能性もあるため、現在調査中である。なお、図面の浸
水区域は現状と瀬田川～宇治川 $1500m^3/s$ 整備後の想定被害数量を併記している。



家屋敷高 約86.2m (B.S.L. 約1.8m)
田面高 約84.8m (B.S.L. 約0.4m)
補正值 約1.4m



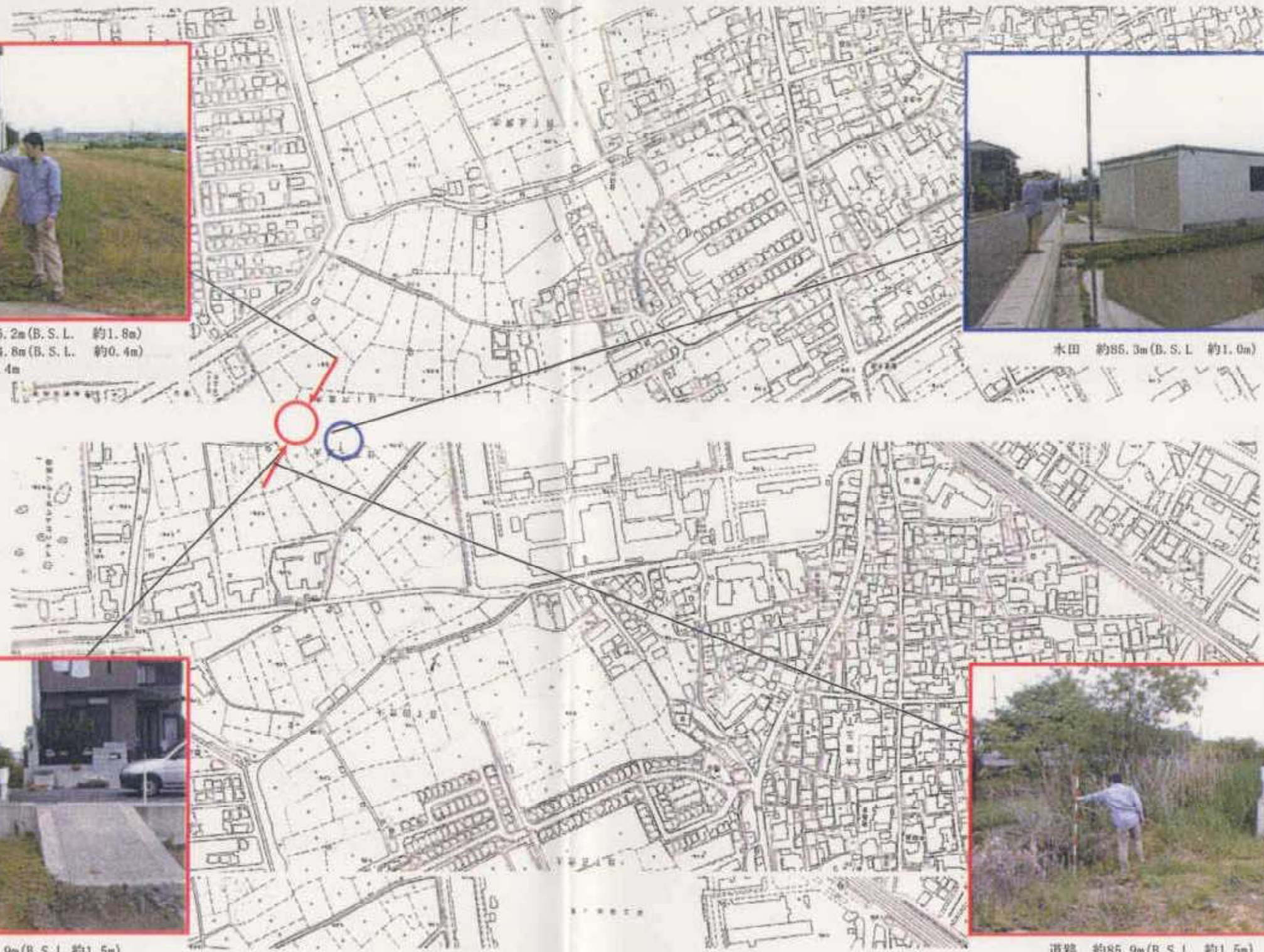
水田 約85.3m (B.S.L. 約1.0m)



家屋敷高 約85.9m (B.S.L. 約1.5m)
周辺地盤高 約84.8m (BSL 約0.4m)
補正值 約1.1m



道路 約85.9m (B.S.L. 約1.5m)



大津市



道 路 約85.4m (B. S. L. 約1.0m)
 家屋敷高 約85.4m (B. S. L. 約1.0m)
 補 正 値 0.0m



道路 約85.5m (B. S. L. 約1.1m)



道路 約85.4m (B. S. L. 約1.0m)



道路 約85.1m (B. S. L. 約0.7m)



堤防 約85.3m (B. S. L. 約0.9m)



道 路 約85.3m (B. S. L. 約0.9m)
 家屋敷高 約86.1m (B. S. L. 約1.7m)
 補 正 値 約0.8m

西の湖入り江